

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ1番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成26年9月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192600118-00&PrefCd=21&Ver=onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成26年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自施設は住宅街に立地しており、建物西側には、三水川が流れ、その川沿いには桜や菜の花等、四季折々の花や景色が広がり、入居者様の心を和ましてくれている。周辺にはなじみの喫茶店や商店街、スーパー、図書館等があり、暮らしの継続できる環境となっている。私たちの理念は“住み慣れた地域で、あなたらしく過ごせる自由で安心な暮らしをお手伝いします”と掲げ、住み慣れた地域で自分らしく過ごせるよう、喫茶店や買い物といった日常的な外出だけでなく、地域のイベントに外出して、地域住民の方と交流することに力を注いでいる。また、クラブ活動を充実させ、習字、絵手紙、お菓子クラブ、工作クラブ等、好みのクラブ活動に参加していただくことで、これまでの趣味が継続でき、今ある力の保有能力が活用できる機会を提供している。他事業所を併設していることで事業所間で連携し、施設内での全体行事も充実し、職員、入居者様同士の交流も持っている。施設内での職員研修についても年間計画に沿い実施し、共に学び、成長し合える事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、四季折々の彩りある自然を背景にした生活環境が整った地域に位置している。医療や福祉の複合体である強みを生かし、法人グループ内での情報交換や連携を通じてケアの質の向上に成果を発揮している。また人材を人財(財産)として捉える観点から利用者ケアの向上に資するべく資格取得の推奨、職員研修の積極的な推進や職員個々の事情に配慮した勤務体制作り等、職員を大切にしたい処遇を行い、職員の意欲をひき出すよう努めている。利用者の生活の質の向上を目指して、昨年度の評価についてのそれぞれの課題に向き合い、課題解決に向けて真摯に取り組む姿勢が感じ取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念を唱和している。各ユニット順番にユニット目標や自ら決めた信条の中から今日意識する目標を発表する事で、目標を意識してケアの実践へとつなげられるようにしている	法人の理念や職員全員で考えた信条を小冊子にして常時携帯し、ケアの場面で迷った時の手引書として、また利用者尊重の具体的な行動基準として活用し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様より、町内行事を紹介していただき、夏祭り、地域清掃、三水川観音参り、運動会等の行事に参加している。また、消防訓練にも参加を呼びかけて来ていただいたり、2ヶ月に1回、元公民館長の方が工作クラブの講師として来所している。6月には授業のため見学に見えた小学生が放課後に遊びに来てリコーダー演奏をし、触れ合う事もできた	町内会や社協、小学校など地域の行事に利用者が平等に出席できる様に配慮して参加している。また地域のスーパーや喫茶店等に出かけ、近隣の知人の方々と会話をする等地域の一員として交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献までとはいえないが、同法人で、地域の祭りにブースを設け、作品展示や小物の手作り体験コーナーを行う等、法人や自施設を知っていただく良い機会となっている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養と協働して2ヶ月に1度開催している。活動内容や行事、運営実績、事故報告、ホームでの様子等紹介している。また、他のグループホームの方にも参加して頂き情報交換をしている。出席者様から頂ける貴重な意見は、施設でのサービスの質の向上に役立っている	平日で昼間開催の運営推進会議であるにも関わらず、多くの方々に出席していただいている。当日は利用者手作りのお菓子を提供する等工夫し、事業所で提供しているおやつを知っていただく機会としている。また出席されている他の事業所との情報交換の場としても活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、区長、民生委員の皆様に参加いただき連絡を密に取るようにしている	わからないことや疑問点があれば、随時連絡し、確認を行う等して市町村担当との連携関係を密にしている。また運営推進会議にも毎回出席があり、助言をいただいている。事業所の質の向上のため共に高め合っていこうと努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている方はいない。しかし、ユニットの玄関が施錠してあり自由とはいえない。今後もユニット会議や安全委員会等で、なぜ扉を閉めることがいけないのかを話し合い、安全面にも配慮して、入居者様が自宅のように自由に安心して過ごせるよう玄関の開放にむけて引き続き取り組んでいきたい	リスクマネジメントを視野に入れた拘束しないケアを念頭に置いて、安全対策を重視した取り組みを行っている。センサーマットや居室出入り口の鈴などで転倒防止策を講じているが、同時にモニターしていると気づかれないうに工夫した支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全委員会内で不適切ケアについて検討し、日頃の自分達の入居者様に対する対応について振り返り、虐待防止に取り組んでいる			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している方はなく権利擁護についての理解は十分ではないが、研修に行った職員が学んできた事をフィードバックすることで学ぶ機会を持てた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の話を聴くことを第一にし、不安や心配を与えないよう、ゆっくりと時間をかけて説明をすること心掛けている。分からないことがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りにも配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受け付け等窓口に掲示している。また、貴重なご意見メモを作成し、ご家族様から頂いた意見はすぐに職員や上司で話し合い迅速に対応できる様努めている。ご家族様の意見は施設の宝物であると考え、サービスの質の向上に繋がるものだと考えている	利用者の身体や精神的な状況変化について、遅れがないように速やかに家族に連絡している。また3か月毎を目標に、利用者一人ひとりの日々の生活の様子をわかりやすく伝える新聞を発行することで、家族との関係を維持し、また意見、要望等を受取りやすくなるよう工夫している。	「個人たより」の発行という大変な努力に敬服するが、今後、職員の労力の軽減を図り、負担を少なくして継続実施できる様、「雰囲気メモ」の活用やその時々気づきをメモにする等習慣づけをして、その中からエピソードをピックアップし、記事を作成するような工夫について検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議等を行い意見交換の場としている。管理者は法人全体の職員からの意見を上申し、時には助言を得ている。また年2回の人事考課には自由記載欄があり、法人や施設に対する意見や要望、悩みや困っている事などの聞き取りをし改善に向けて取り組んでいる	様々な会議が頻繁に行われ、管理者と現場職員との意見交換が行われている。職員からの「してほしい」要望スタイルを「していこうよ」「一緒にやろう」スタイルへの方向付けをして施設運営に活用している。例として職員提案のアニマルセラピーを導入する前のきっかけ作りや、勤務場所、シフト体制の組み方の希望が反映される風通しの良い事業所運営が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年初めの自己目標管理シートに自分自身の目標や目標達成のための具体的行動を書いている。人事考課の際に面談を行い、評価及び指導、助言を行っている。また人事考課によるキャリアパス制度も導入している。介護福祉士を受験する職員には施設内での模試や小テストを行い、介護福祉士合格に向け法人としてバックアップしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や学びたい意欲に応じて外部研修を受講している。また、法人内でも研修や研究発表を行い共に勉強、共に成長できる機会の場としている。また、新人職員には不安にならないようプリセプターをつけた指導体制をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議や系列法人の合同検討会への参加をしている。また、他部署研修へ行く事で学ぶ機会が持っている。他施設との交流で学んだ事を自施設に持ち帰る事でサービスの質の向上につなげている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安に耳を傾け想いを聞き取るようにしている。表情や態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回契約時にご家族様の話をじっくり聴くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けることを心掛けている。ご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応をし、信頼関係が深まるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に本人様やご家族様の現状や不安、要望をお聞きした上で本人様、ご家族様双方にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切に、可能な限り自分の力が発揮できるよう言葉がけや支援方法、環境作りに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に健康面や生活の様子等お伝えし情報交換している。面会は本人様とご家族の大切な時間と考えている。また、定期的にお便りを発行しご家族様へ郵送している。本人様のお誕生日は特別な日と位置づけ、要望をお聞きし、ご家族様との協働した絆が深まる行事計画をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り記録へ記入し、情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように24時間の面会に対応している。また希望に応じて外出の支援やご家族様の施設での宿泊等行っている	24時間面会可能という家族に配慮した施設運営を行っている。家族が宿泊できるベッドが用意され、利用者や家族の希望に応じて利用できるようにしている。利用者の朝夕のお参りや読書等それぞれの趣味や嗜好に合わせた生活スタイルや馴染みの習慣が継続ができるよう環境整備を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況や、その時のユニットの雰囲気などに配慮し、状況に応じて時には食席の変更や1対1の個別ケアも大切にしている。また、役割を持つことやレクリエーション、生活リハビリ等を通し関わりが深まるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の他事業所に1名転室された方がいるが、ご家族様の面会時等お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できる事をお伝えしている。本人様へはユニット間での交流や施設内の全体行事等で交流を図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の何気ない言葉から思いを感じ取る事を大切にしている。意思疎通が可能な方にはサービス担当者会議に出席していただいて希望や意向を聞き取りしている	しぐさや表情などの小さな変化に目を向けたり、また体操や食事時など何かしながらの自然な声かけを行い、気楽に話し合いができる雰囲気作りに心がける等して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に、入居前にアセスメントシートの記入を依頼をしている。また入居後も本人様に聞き取り、生活歴やなじみの生活習慣等、暮らしの情報の把握に努めている。また、ご家族様には面会時に情報を得ようとしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の暮らし方や聞き取りした内容をもとに、24時間シートを作成し、1人1人の生活リズムの把握や、その方の生活での好みや意向、自分でできることや支援が必要なこと等記入し、職員間で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、本人様やご家族様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、2ヶ月に1回法人内のGH計画作成者担当者同士で会議を持ち、介護計画に関する悩み、課題を情報交換している。ユニット会議ではユニット内での現在の介護計画が本人様の状態にあっているか確認し、ケア方法を職員で検討している。ケアプランは担当者を決めて3ヶ月に1回モニタリングをし、月に1回面接をしている	介護計画は、本人や家族の要望を聞き、事業所職員や法人内の専門職の意見を取り入れ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録や送り送りファイル、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。ケアプランに沿って入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、職員間で検討してケアの標準化や質の向上、介護計画へとつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況に応じ、その時々によってどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。決して一人で決めるのではなく、報告、連絡、相談を大切にし他職種とも連携をとりながら色々な方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様からの地域行事へのお誘いやボランティアの方も少しずつ増えてきている。ボランティアの来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関と連携している	多くの利用者が法人の医師を主治医とし、定期的に診療を受ける等医療連携が密に取れている。眼科など他科受診については、利用者の状況や事業所内での様子についても情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人様や家族様、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針はあるが、まだ事例としてはない。法人契約している葬儀社の方に来ていただき9月、10月に看取りについての研修の開催予定をしている。また、日々の支援の中、体調不良や状態変化があった場合に今後どのように生活を送りたいか、その都度ご家族様へ説明をし、本人様の最期を共に考える姿勢でいる	エンディングノートを用いて、フィードバック研修をしたことで、職員間でそれぞれの死生観について考える機会となった。また、利用者が終末期をどう迎えるかについて本人や家族の意向に沿った支援ができるよう話し合いを継続的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主催のもと、定期的に行われる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている。緊急時マニュアルも作成し落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ、消防署員の方に来ていただき年に2回、避難訓練や通報訓練を実施している。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている。また、4月は入居者様にも参加していただき、実際に避難誘導や介助を行うことができ、今後に備えていく	建物は鉄筋の耐震構造であり、キッチンには電磁調理器を使用する等、地震や火災に備えた造りとなっている。地域との協力体制ができており、地域の福祉避難施設になっている。また夜間想定訓練にも利用者の参加を得て実施している。	今後、地域の方々と防災の取り組みについて話し合う等して更なる防災体制の強化に努め、利用者の状態が把握できる様にする等、第三者による救出を想定した工夫に向けた取り組みに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室には使用中の札を作成し活用している。入浴時希望のある方には同性介助を可能な限り行っている。入居者様の思いや表情を汲みとり1人1人合ったケアが行えるよう心掛けている	トイレ使用の際や同性の入浴介助についての課題を解決し、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保が図られている。その他大声での話や人前で利用者の話をしない等配慮ある支援に努めている。また各居室には暖簾がかけられ、部屋の中が外から見えないよう工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や消灯の時間、行事や入浴の有無などは本人様の思いを大切にしている。また、ボランティア、レクリエーションへの参加なども入居者様の希望を確認し、本人様の思いを尊重している。中には遠慮をして希望を言われない方もみえるので、声かけはするが強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ生活していただいている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡の前にて、髪をとかしていただいたり、顔を洗っていただいている。外出前などは季節に合った服と一緒に選び、お気に入りの服に着替えたりしている。イベント時にはお化粧なども楽しんでいただく機会を持っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には炊飯器をカートで運び1人1人好みに合わせた量を聞いて提供している。片付けはリハビリをかねて食器洗いや食器拭き、テーブル拭き等行っている。また、ご家族様からの差し入れの野菜やプランターで育てた野菜を各入居者様が役割分担をして調理している。また、職員も同じメニューを同じテーブルで食べ同じ時間を過ごしている	「あったか食事大作戦」と称し、利用者の食卓の前に炊飯器やポット等をカートで運び、冷めないように、また利用者の希望量に配慮して提供できるよう配膳の工夫をしている。また月1回の行事食や利用者の誕生日についてはオンリータイムとし、利用者の希望を聞いて外出や外食を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスを考慮に入れた献立のもと、量や好みに合わせた食事を提供している。ポットはカウンターに設置しいつでも飲めるようにし、水分は毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。その他でも散歩の後など習慣や気温などに合わせ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方は職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。必要な方は随時歯科医の診察、歯科衛生士による口腔ケアを受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、入居者様の排泄パターンを把握できるよう心掛けている。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、できるだけオムツの中ではなくトイレでの排泄を大切にしている。着脱がしやすいズボンやマジックテープタイプのパットを使用し、できるだけ排泄動作が自分で出来るよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、着脱しやすいズボンやマジックテープを用いる等工夫して、利用者の能力に応じてできるだけトイレの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、運動をするなど個々にあった便秘の予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や体調にそえるように時間やタイミングを考え、入浴を楽しんでいただけるようイベント浴として入浴剤を使用し、色や香りも楽しむ機会を提供している。また、1対1の対応で、焦らせることのないようゆったりとした入浴を心掛けている。	柚子、菖蒲やバラの花等を浮かべるイベント入浴を行い、ゆったりと入浴を楽しんでいた。週3回が入浴の基本であるが、毎日の入浴も可能であり、利用者の希望に沿った支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は、横になられるなど休息できる時間をその方の希望に合わせて行っている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。服薬介助は個々の状況に合わせて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たたみを進んで行なっている。またクラブ活動を行い、好きな活動に参加してもらうことで、個々に応じた現能力を生かし楽しく生活できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外への外出行事に、多くの入居者様が参加できるように事前に計画を立てている。まだまだ日常的とまでいかないが、喫茶や買い物等少しずつ行っている。また本人様の希望を伺った際、ご家族様へ相談し、ご自宅や家族の方との外出ができるよう支援している	日常的に利用者に会いたい人や行きたい場所について聞く等して把握し、利用者の希望に沿った外出支援を行っている。外出の頻度を高めるため、今後、家族の協力の他、利用者の友人知人、ボランティア等の協力者の拡充など事業所の枠を超えて法人施設内での連携を強化する等外出支援の方策を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出前にご家族様へ前もってお伝えし、金銭を持参し、入居者様が、自己にて好きな物を選び購入できるよう支援している。また入居者様の状態に合わせて支払い等の自己にて行えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き、電話をかけてもらっている。手紙を書かれる方にはポストへの投函は職員が代理で行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、リビングにお花を飾ったり、ベランダを活用しプランターで季節の野菜作りを行っている。また、季節に合った作品を作り掲示して居心地のよい空間づくりをしている。職員の行動や声の大きさにも配慮し不快な刺激がない様努めている	事業所が3階にあるため、外の見晴らしがととも良く、リビングは広くゆったりとした空間であり、花を飾る等季節感を感じ取れるよう工夫している。また広く取ったベランダでは緑のカーテンやミニトマトのプランターを利用者皆さんで作ったりする等楽しくゆったりと過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室をコーナーを設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファや畳を設けて、くつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と話し、自宅で使用していたなじみの家具や写真等を持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参されるなど、好きなものや使い慣れたものがあることで安心して過ごしていただけるよう支援している	利用者の今まで馴染みの家具や写真、小物など思い出のある大切な物等を家族にも協力してもらいながら、身の回りに置いて、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベットの柵は、L字介助バーにするなど配慮し、入居者様それぞれの身体状況に合わせて対応し、安全面に配慮して支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ2番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成26年9月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ll_gyosyoQd=2192600118-00&PrefQd=21&VersionQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念を唱和している。各ユニット順番にユニット目標や自ら決めた信条の中から今日意識する目標を発表する事で、目標を意識してケアの実践へとつなげられるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様より、町内行事を紹介していただき、夏祭り、地域清掃、三水川観音参り、運動会等の行事に参加している。また、消防訓練にも参加を呼びかけて来ていただいたり、2ヶ月に1回、元公民館長の方が工作クラブの講師として来所している。6月には授業のため見学に見えた小学生が放課後に遊びに来てリコーダー演奏をし、触れ合う事もできた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献までとはいえないが、同法人で、地域の祭りにブースを設け、作品展示や小物の手作り体験コーナーを行う等、法人や自施設を知っていただく良い機会となっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養と協働して2ヶ月に1度開催している。活動内容や行事、運営実績、事故報告、ホームでの様子等紹介している。また、他のグループホームの方にも参加して頂き情報交換をしている。出席者様から頂ける貴重な意見は、施設でのサービスの質の向上に役立っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、区長、民生委員の皆様に参加いただき連絡を密に取るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている方はいない。しかし、ユニットの玄関が施錠してあり自由とはいえない。今後もユニット会議や安全委員会等で、なぜ扉を閉めることがいけないのかを話し合い、安全面にも配慮して、入居者様が自宅のように自由に安心して過ごせるよう玄関の開放にむけて引き続き取り組んでいきたい		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全委員会内で不適切ケアについて検討し、日頃の自分達の入居者様に対する対応について振り返り、虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している方はなく権利擁護についての理解は十分ではないが、研修に行った職員が学んできた事をフィードバックすることで学ぶ機会を持てた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の話を聴くことを第一にし、不安や心配を与えないよう、ゆっくりと時間をかけて説明をすること心掛けている。分からないことがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りにも配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受け付け等窓口に掲示している。また、貴重なご意見メモを作成し、ご家族様から頂いた意見はすぐに職員や上司で話し合い迅速に対応できる様努めている。ご家族様の意見は施設の宝物であると考え、サービスの質の向上に繋がるものだと考えている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議等を行い意見交換の場としている。管理者は法人全体の職員からの意見を上申し、時には助言を得ている。また年2回の人事考課には自由記載欄があり、法人や施設に対する意見や要望、悩みや困っている事などの聞き取りをし改善に向けて取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年初めの自己目標管理シートに自分自身の目標や目標達成のための具体的な行動を書いている。人事考課の際に面談を行い、評価及び指導、助言を行っている。また人事考課によるキャリアパス制度も導入している。介護福祉士を受験する職員には施設内での模試や小テストを行い、介護福祉士合格に向け法人としてバックアップしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在身体拘束をしている方はいない。しかし、ユニットの玄関が施錠しており自由とはいえない。今後もユニット会議や安全委員会等で、なぜ扉を閉めることがいけないのかを話し合い、安全面にも配慮して、入居者様が自宅のように自由に安心して過ごせるよう玄関の開放にむけて引き続		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議や系列法人の合同検討会への参加をしている。また、他部署研修へ行く事で学ぶ機会が持っている。他施設との交流で学んだ事を自施設に持ち帰る事でサービスの質の向上につなげている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安に耳を傾け想いを聞き取るようにしている。表情や態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回契約時にご家族様の話をじっくり聴くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けることを心掛けている。ご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応をし、信頼関係が深まるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に本人様やご家族様の現状や不安、要望をお聞きした上で本人様、ご家族様双方にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切にし、可能な限り自分の力が発揮できるよう言葉がけや支援方法、環境作りに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に健康面や生活の様子等お伝えし情報交換している。面会は本人様とご家族の大切な時間と考えている。また、定期的にお便りを発行しご家族様へ郵送している。本人様のお誕生日は特別な日と位置づけ、要望をお聞きし、ご家族様との協働した絆が深まる行事計画をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り記録へ記入し、情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように24時間の面会に対応している。また希望に応じて外出の支援やご家族様の施設での宿泊等行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況や、その時のユニットの雰囲気配慮し、状況に応じて時には食席の変更や1対1の個別ケアも大切にしている。また、役割を持つことやレクリエーション、生活リハビリ等を通し関わりが深まるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の他事業所に1名転室された方がいるが、ご家族様の面会時等お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できる事をお伝えしている。本人様へはユニット間での交流や施設内の全体行事等で交流を図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の何気ない言葉から思いを感じ取る事を大切にしている。意思疎通が可能な方にはサービス担当者会議に出席していただいて希望や意向を聞き取りしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に、入居前にアセスメントシートの記入を依頼をしている。また入居後も本人様に聞き取り、生活歴やなじみの生活習慣等、暮らしの情報の把握に努めている。また、ご家族様には面会時に情報を得ようとしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の暮らし方や聞き取りした内容をもとに、24時間シートを作成し、1人1人の生活リズムの把握や、その方の生活での好みや意向、自分でできることや支援が必要なこと等記入し、職員間で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、本人様やご家族様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、2ヶ月に1回法人内のGH計画作成者担当者同士で会議を持ち、介護計画に関する悩み、課題を情報交換している。ユニット会議ではユニット内での現在の介護計画が本人様の状態にあっているか確認し、ケア方法を職員で検討している。ケアプランは担当者を決めて3ヶ月に1回モニタリングをし、月に1回面接をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録や送り送りファイル、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。ケアプランに沿って入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、職員間で検討してケアの標準化や質の向上、介護計画へとつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況に応じ、その時々によりどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。決して一人で決めるのではなく、報告、連絡、相談を大切にし他職種とも連携をとりながら色々な方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様からの地域行事へのお誘いやボランティアの方も少しずつ増えてきている。ボランティアの来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関と連携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人様や家族様、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針はあるが、まだ事例としてはない。法人契約している葬儀社の方に来ていただき9月、10月に看取りについての研修の開催予定をしている。また、日々の支援の中、体調不良や状態変化があった場合に今後どのように生活を送りたいか、その都度ご家族様へ説明をし、本人様の最期を共に考える姿勢でいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主催のもと、定期的に行われる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている。緊急時マニュアルも作成し落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ、消防署員の方に来ていただき年に2回、避難訓練や通報訓練を実施している。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている。また、4月は入居者様にも参加していただき、実際に避難誘導や介助を行うことができ、今後に備えていく		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室には使用中の札を作成し活用している。入浴時希望のある方には同性介助を可能な限り行っている。入居者様の思いや表情を汲みとり1人1人合ったケアが行えるよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や消灯の時間、行事や入浴の有無など、どんな事に対しても入居者様の立場を大切にし、「恥ずかしい」「迷惑になるかも」などと気を遣わせないような声かけの配慮をしている。中には遠慮をして希望を言われない方もみえる為、声をかけるが決して強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ生活していただいている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時やベッドから起きた時は鏡の前にて、髪をとかしていただいたり、顔を洗っていただいている。行事や外出時は事前にお伝えし、一緒に服を選び、お化粧をできるよう支援している。男性の入居者様には髭剃りを自己にてやって頂くよう声かけをしつつ、時に介助をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューを提供しているがご飯とみそ汁はユニットで作り、みそ汁は入居者様に味見をしてもらっている。またご家族様から差し入れがある場合は材料によっては、皮をむく、切る等役割を持ってもらっている。片付けはリハビリをかねて食器を拭いたり、テーブルを拭いたり、後片付けを一緒にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスを考慮に入れた献立をその方の体調や好みに合わせ1人1人に合った量で提供している。水分量は温度の好みも配慮しながら毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。1度にたくさん飲まれない方はこまめに提供したり、好みの物や、持込みの飲物等その方に合った提供を心掛けている。その他でも散歩の後など習慣や気温などに合わせ水分補給やその支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方は職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。必要な方は随時歯科医の診察、歯科衛生士による口腔ケアを受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、入居者様の排泄パターンを把握できるよう心掛けている。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、できるだけオムツの中ではなくトイレでの排泄を大切にしている。着脱がしやすいズボンやマジックテープタイプのパットを使用し、できるだけ排泄動作が自分で出来るよう支援している。夜間はポータブルトイレの使用もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、運動をするなど個々にあった便秘の予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそえるように時間やタイミングを考え、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。イベント浴を行ったり入浴剤を使用し、色や香りも楽しんでもらっている。また、1対1の対応で焦らせることのないようゆったりとした入浴を心掛けている。寝浴の対応の方もみえるがその日の体調に合わせて入浴してもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は、横になられるなど休息できる時間をその方の希望に合わせて行っている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。服薬介助は個々の状況に合わせて支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たたみを進んで行なっている。またクラブ活動を行い、好きな活動に参加してもらうことで、個々に応じた現能力を生かし楽しく生活できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外への外出行事に、多くの入居者様が参加できるように事前に計画を立てている。まだまだ日常的とまでいかないが、喫茶や買い物等少しずつ行っている。また本人様の希望を伺った際、ご家族様へ相談し、ご自宅や家族の方との外出ができるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出前にご家族様へ前もってお伝えし、金銭を持参し、入居者様が、自己にて好きな物を選び購入できるよう支援している。また入居者様の状態に合わせて支払い等の自己にて行えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き、電話をかけられる事もある。手紙を書かれる方もおられ、ポストへの投函は職員が代理で行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をとり入れる為、お花などを飾ったり、季節に合った作品づくりをしている。詰所内や天窓にもカーテンをつけたりと居心地のよい空間づくりをしている。また職員から障子戸の寄付もあり、和の要素も取り入れる予定である。職員の行動や声の大きさにも配慮し不快な刺激がない様努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室をコーナーを設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファや畳を設けて、くつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と話をし、自宅で使用していたなじみの家具や写真等を持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参されるなど、好きなものや使い慣れたものがあることで安心して過ごしていただけるよう支援している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベット柵は、L字バーにするなど配慮し、入居者様それぞれの身体状況に合わせ対応し、安全面に配慮して支援している		